主　論　文　要　旨

No.1

報告番号	甲　乙　第　　号	氏　名	土井原　奈津江

主 論 文 題 目：

高齢者グループリビングの持続的運営に関する研究

（内容の要旨）

「自立と共生」を理念として開設した高齢者グループリビング COCO 湘南台は、居住者を中心とする運営法人が「生活支援サービスを地域から共同購入する高齢者の小規模共同居住形式」という当事者中心の仕組みを作り出すことによって、持続的運営を可能にする高齢者の住まい方の新しいモデルを提示した。（財）JKA は、同モデルの公益性に着目して補助事業を実施し、全国に 16 件が開設されたが、これらの運営法人のほとんどはケアサービス提供主体の法人となった。本研究は、COCO 湘南台が開設後 15 年を経て、理念の実現をめざす運営はどのように変化してきたのか、一方で当事者中心でない運営主体が「自立と共生」の根幹にある「居住者が必要なサービスを共同購入する」という仕組みをどのような形で実現しているのかという、2 つの側面から持続的運営の実態を明らかにし、社会的普及に向けた高齢者共同居住モデルを提示した。

COCO 湘南台を対象とした研究では、長期にわたる参与観察や法人が所有する会報や議事録の整理、居住者に対するインタビューを通して、時間的推移の中での居住実態の変化を分析した。最初の 10 年間は開設時からの居住者が大半を占め、食事サービスのワーカーズを変更するなど、居住者の合意にもとづいて共同居住に必要なサービスを購入する仕組みが機能していた。しかし、初期居住者の加齢や死亡退去、新しい居住者の短いサイクルでの入れ替わりによって、共同性の基盤とリーダーシップは弱まり、新たな仕組みへの移行が必要になっていることが明らかになった。

一方、後続の中から、地域の助け合い活動をベースに介護保険事業にも取り組んでいる NPO が運営する事例を取り上げ、参与観察、運営者や居住者への詳細なインタビューを通して、COCO 湘南台等との比較分析を行った。本事例は、自立支援のための生活援助をケアを含めて運営者が主体性と責任を持って行うこと、居住者間、居住者とサービス提供者の間での多様なコミュニケーションを通して生活ニーズを把握し、運営に反映させる仕組みを持つこと、地域との交流を日常的に行う場を多様に用意し、居住者が地域の一員として生きる環境を整えることの 3 点によって、加齢に対応しつつ「自立と共生」の理念を実現している。これらの要素を個別の運営環境に合わせて具体化すれば、高齢者グループリビングは社会的に普及可能な居住様式として、高齢社会の居住の選択肢の一つになることが可能であると考えられる。

キーワード：高齢者グループリビング、成立構造、運営形態、生活支援サービス、持続性